

平成21年度病害虫発生予報第2号

平成21年4月28日
愛 知 県

1 普通作物

コムギの生育はやや早めに進んでいます。気象予報によれば、5月は晴れの日が多い見込みですが、今後、降雨が続く場合は、赤かび病の発生に注意しましょう。詳細は「ムギ類赤かび病情報第2号」を参照してください。

イネもみ枯細菌病（苗腐敗症）は急激な温度変化やかん水むらなどが発生を助長します。適正な温度管理などに気をつけましょう。

2 果樹

果樹の生育は、平年より2～3日早く進んでいます。今年は開花期間が長く生育ステージにばらつきが見られます。さらに、気象予報によれば、5月の上旬までは寒暖の変動が大きいと見込まれていることから、害虫の発生時期や発生状況に注意し、適期防除を心がけましょう。

ナシヒメシンクイの第1世代幼虫はモモ新梢での芯折れを引き起こします。芯折れを認めたら早めに切り取り適切に処分しましょう。また、第2世代以降による果実被害を防ぐために、薬剤防除を実施しましょう。

モモのウメシロカイガラムシのふ化を長久手町のほ場で確認しました。最も重要な防除時期は第1世代1齢幼虫期です。防除適期を逃さないようにしましょう。詳細は「果樹カイガラムシ類情報第1号」を参照してください。

ナシ黒星病の感染源になる花そう基部での発生を確認しています。輪紋病や赤星病とともに適切に防除しましょう。

ブドウ黒とう病は、展葉初期から新梢伸長期に降雨が続くと多発しやすくなります。晩腐病の予防も兼ねて、伝染源である前年の罹病枝や巻きひげは、切り取って適切に処分するとともに、適期防除を心がけましょう。

3 野菜

タマネギべと病の発生は少ない状況ですが、今後降雨が続くと、発生の増加が心配されます。曇雨天が続く場合は、降雨後速やかに防除を実施しましょう。また、タマネギ黒腐菌核病の発生が見られるほ場があります。べと病、黒腐菌核病とも罹病株および被害残さは次作の伝染源になりますので、ほ場外に持ち出し適切に処分しましょう。

トマト黄化葉巻病はここ数年で最も多い発生量となっています。原因となるTYLCVは、タバココナジラミによって媒介されます。黄化葉巻病が発生している施設では、収穫終了後、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して、タバココナジラミを死滅させましょう。

ナス、キュウリではミナミキイロアザミウマの発生が依然多い状況が続いています。また、キュウリではミナミキイロアザミウマが媒介するキュウリ黄化えそ病（MYSV）の発生も多くなっています。収穫終了後、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して、ミナミキイロアザミウマを死滅させましょう。

4 花き

キク（露地）では、気温の上昇に伴い白さび病やアブラムシ類、ハダニ類が増加する時期になりますので、親株床も含めて適切に防除しましょう。

普通作物

1 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
イネ	いもち病 (苗いもち)	やや少ない	全域	前年の穂いもち発生量はやや少ない	—
	ばか苗病	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	もみ枯細菌病 (苗腐敗症)	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	ヒメトビウンカ	平年並	全域	前年の発生量は平年並	±
	イネミズゾウムシ	やや少ない	全域	前年の発生量はやや少ない	—
ムギ	うどんこ病	平年並	全域	4月下旬現在、発生を確認していない 5月の降水量は平年並	± ±
	赤かび病	平年並	全域	4月下旬現在、発生を確認していない 5月の降水量は平年並	± ±

果樹

1 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	そうか病	平年並	全域	3月の越年罹病葉率は平年並	±
	ミカンハダニ	平年並	全域	3月上旬の発生量は平年並 5月の気温、降水量は平年並	± ±
ナシ	黒星病	やや多い	全域	前年秋の発生量は多い 4月下旬の発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ± ±
	アブラムシ類	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並 5月の気温、降水量は平年並	± ±
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	前年秋の発生量は平年並 4月下旬の発病枝率は平年並 5月の降水量は平年並	± ± ±
	ナシヒメシンクイ	平年並	全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
モモ	モモハモグリガ	平年並	全域	4月下旬の被害葉率は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 4月下旬現在、発生を確認していない 5月の降水量は平年並	± ± ±
	べと病	やや少ない	全域	前年の発生量はやや少ない 5月の降水量は平年並	- ±
カキ	炭疽病	平年並	全域	前年の発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ±
	うどんこ病	やや少ない	全域	前年秋の発生量はやや少ない 5月の降水量は平年並	- ±
果樹共通	カメムシ類	平年並	全域	4月下旬のフェロモントラップにおける誘殺数は平年並 越冬量調査による越冬世代成虫数は平年並	± ±

2 防除対策 〔ナシ黒星病〕

発病葉や発病果実は伝染源となるので、取り除き、園外へ持ち出し処分するとともに、インダーフロアブル、デランフロアブル、トップジンM水和剤などで防除を徹底しましょう。また、薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連用を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

野菜

1 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
タマネギ	べと病	少ない	全域	4月下旬現在、調査ほ場では発生を確認していない。 5月の気温、降水量は平年並	- ±
トマト (施設)	コナジラミ類	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	黄化葉巻病	やや多い	全域	4月下旬の発生量はやや多い	+
ナス (施設)	ハダニ類	平年並	全域	4月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロアザミウマ	多い	全域	4月下旬の発生量は多い	+

2 防除対策 〔トマト黄化葉巻病〕

発病株は抜き取り適切に処分しましょう。また、本病を媒介するタバココナジラミをハチハチ乳剤やベストガード水溶剤などで徹底的に防除しましょう。マルハナバチを利用している場合は、マルハナバチへの影響日数および薬剤の使用回数に注意しましょう。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉してタバココナジラミを死滅させましょう。

〔ナス・ミナミキイロアザミウマ〕

各種薬剤に対する感受性が低くなっているため、天敵や微生物農薬による生物的防除を組み入れるなど総合的な対策を行いましょ。また、多発ほ場では、プレオフロアブル、アフーム乳剤、ハチハチ乳剤などで防除しましょ。

花き

1 予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	白さび病	平年並	全域	親株での発生量は平年並 5月の降水量は平年並	± ±
	アブラムシ類	やや多い	全域	黄色水盤及び黄色粘着トラップにおける誘殺数はやや多い 5月の気温、降水量は平年並	+ ±

2 防除対策

〔キク・アブラムシ類〕

発生を確認したら、ウララ50DF、ダントツ水溶剤などで直ちに防除をしましょ。定植時にはモスピラン粒剤やスタークル粒剤を植穴処理しましょ。

参考

東海地方 1か月予報 (名古屋地方気象台4月24日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れる日が多い見込みです。

週別の気温は、1週目は低い確率70%、2週目は高い確率60%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い : 30% 平年並 : 40% 高い : 30%
 〔降水量〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%
 〔日照時間〕 少ない : 30% 平年並 : 40% 多い : 30%

〈予想される天候の特徴〉

当地方の向こう1か月は、天気は数日の周期で変わるでしょう。気圧の谷や低気圧の影響を受ける日がありますが、平年と同様に高気圧に覆われて晴れる日が多いでしょう (4月25日～5月22日の晴れ日数の平年値は約16日)。

- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょ。
- 農薬を使用するときは、ラベルの表示事項を必ず守りましょ。
- 防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょ。
 - ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょ。
 - ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょ。
 - ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょ。
 - ・ 飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょ。
- 農薬飛散の影響が少ない環境づくりを心がけましょ
 - ・ 近接ほ場 (または同一ほ場内) の他作物との間に距離をあけましょ。
 - ・ ネットや垣根等を利用し、近接ほ場との間に遮蔽物を設けましょ。

マイナー作物対策・ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については
<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。